



## 桜吹雪舞う悠久の山里 竹田

坂井市丸岡町山竹田など

溪谷沿いに竹田川上流に向かうと急に視界が広がる。しだれ桜が咲く美しい竹田の里である。茅葺きの千古の家、竹田川のせせらぎの音、そば畑、静かで落ち着いた懐かしい風景が広がっている。

咲き誇るしだれ桜（たけくらべ広場）<sup>①</sup>竹田の里全景<sup>②</sup>

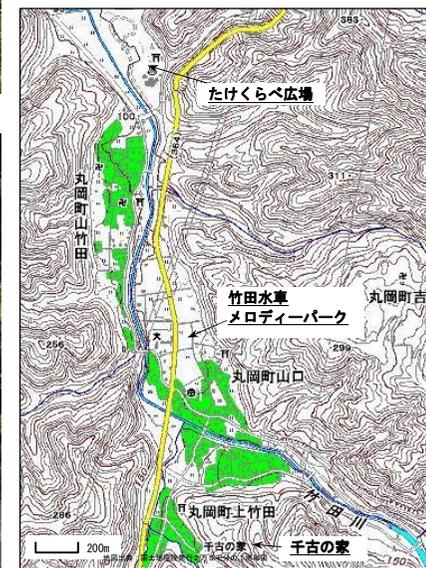
しだれ桜が咲く美しい竹田の里では、毎年4月にしだれ桜まつりが開かれ、6万人を超える観光客で賑わい、訪れた人をしだれ桜の世界に引き込みます。

丸岡町竹田地区は、山中温泉と永平寺を結ぶ国道364号のほぼ中間にあり、県の北の玄関口の一つです。周りはたけくらべやま（標高1,045m）、ひともしやま（標高803m）の山並みに囲まれ、竹田川の清らかなせせらぎ、四季折々の花など、美しく豊かな自然に恵まれたのどかな地域です。

しだれ桜のライトアップ（たけくらべ広場）<sup>③</sup>

花菖蒲と千古の家（坪川家住宅）（国重文）

また、せんごの家（坪川家住宅）やよしたにしせんなど歴史的価値のある遺跡もあり、特に、千古の家は、その建築様式から中世末もしくは江戸時代初期のものと言われており、当時の地方豪族の生活様式を窺い知ることができる貴重な建造物で、県内最古の民家です。

竹田川の溪流での川遊び<sup>④</sup>



# 命を育む母なる大河 九頭竜川

勝山市法恩寺山周辺、永平寺町松岡神明など

福井県一の大河、九頭竜川の豊富な水、速く清らかな流れで育った鮎の味は格別だという。この水は鳴鹿大堰を経て坂井平野を潤す。



法恩寺山から見る雄大な九頭竜川①



九頭竜川堤防を彩る勝山弁天桜②

勝山市にある法恩寺山（標高 1,357m）からは、雄大に流れる九頭竜川と勝山の市街地を一望できます。晴れた日には、福井平野まで見渡すことができ、ダイナミックな眺望を楽しめます。

勝山弁天桜は、九頭竜川の右岸堤防上約 1.5km にもおよぶ桜並木で、春は見事な桜のトンネルをつくる県下でも有名な花の名所です。越前甲（大日山）の残雪と調和する桜並木は、雪国ならではの春の景観です。



九頭竜川（五松橋から下流を望む）③



鳴鹿大堰



太公望で賑わう九頭竜川

雄大な清流と鮎つりののどかな風景が見られる九頭竜川中流域は、古来より福井の穀倉地帯を支える利水の要衝となっています。

現在も「鳴鹿大堰」とそこから引かれる「芝原用水」など、福井の生活を支える利水の風景が見られます。

鳴鹿大堰は九頭竜川中流部に位置する、堤高 5.7m、堤頂長 311.6m の大規模な可動堰です。古来より何度か改修されていて、平成 16 年に現在の姿で建設されました。

また、九頭竜川は福井の自然の豊かさのシンボルであり、水量が豊富で太い流れに育まれた鮎は身が締まりおいしいことで全国的に知られています。毎年 6 月中旬から 10 月の落鮎の頃までは、鮎釣りの風景を見ることができます。特に、腰まで水につかって竿を支える太公望の姿は、福井の夏の風物詩ともいえます。





# 風を浴びて 永平寺から福井に続く自転車道

永平寺町中島～県立福井運動公園

夏の暑い日、長い道を気長に走り、のんびりと山や川を見つめてみる。意外と楽しいものだ。気づけば終点に近い。この調子だと秋もまた楽しめそうだ。



日野川堤防上の自転車道（福井市三郎丸町周辺）<sup>②</sup>



サイクリング風景（永平寺町松岡上合月）<sup>①</sup>

永平寺から福井までの区間にはサイクリングの楽しめる道が続いています。

特に鳴鹿大堰から福井運動公園までの主に堤防沿いには総延長2.6kmの「永平寺福井自転車道」が整備され、長く続く自転車道を走れば、河川沿いのシバザクラや菜の花などの自然景観が楽しめます。



シバザクラ（永平寺町鳴鹿山鹿）<sup>②</sup>



菜の花とシバザクラ（永平寺町法寺岡）<sup>③</sup>



河川公園（永平寺町中島）<sup>④</sup>





# 禅の修行道場 永平寺

えいへいじ

永平寺町志比 など

永平寺は生活のすべてを修行とした道元禅師が開いた修行道場。食事や掃除などでさえ大切な禅の修行だという。磨かれた廊下を歩くと、自然と背筋も伸びてしまう。



中雀門（県文化財）と雲水①

今から約760年前の寛元2年（1244年）、坐（禅）を重んじた道元禅師によって開かれた永平寺は、雲水と呼ばれる修行僧2百余名が日夜修行にはげむ日本曹洞宗の大本山です。

約10万坪の境内には、七堂伽藍を中心に約70の建物が並び、老杉や石畳などと一体となった風景が見られます。

永平寺町では毎年夏、河川で実施される燈籠流しとしてはたいへん大規模な「永平寺大燈籠ながし」が開かれます。雲水による読経の後、先人たちの想いながら、九頭竜川に約1万個もの燈籠が流され、ゆらゆらと輝く光の帯が幻想的な雰囲気を作り出します。



唐門



永平寺の伽藍と紅葉

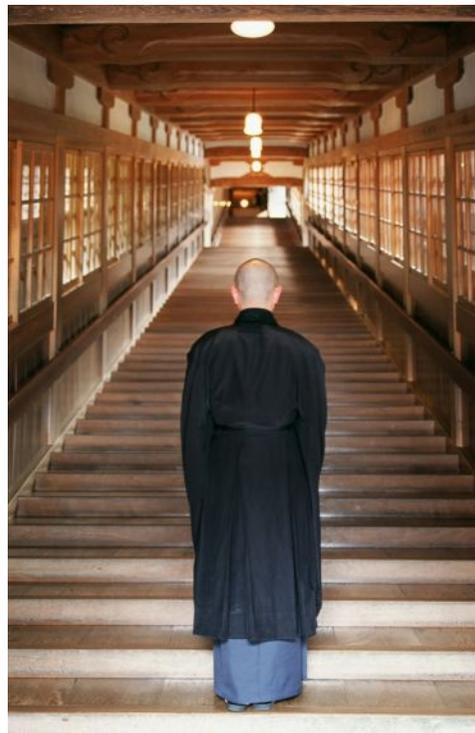


大燈籠ながし



除夜の鐘

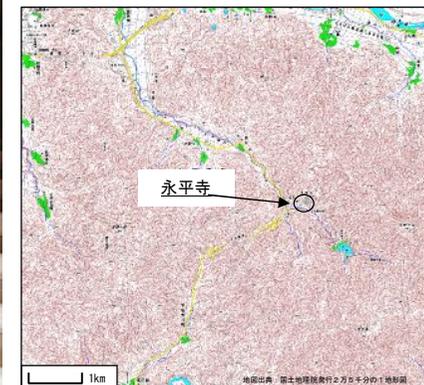
永平寺の玄関口であるえちぜん鉄道の永平寺口駅は大正3年建設と古く、レトロな外観を有しています。現在でも利用されているこの駅舎は、永平寺への観光客でにぎわった往時をしのばせる貴重な建築物です。



回廊



永平寺口駅舎（永平寺町東古市）②



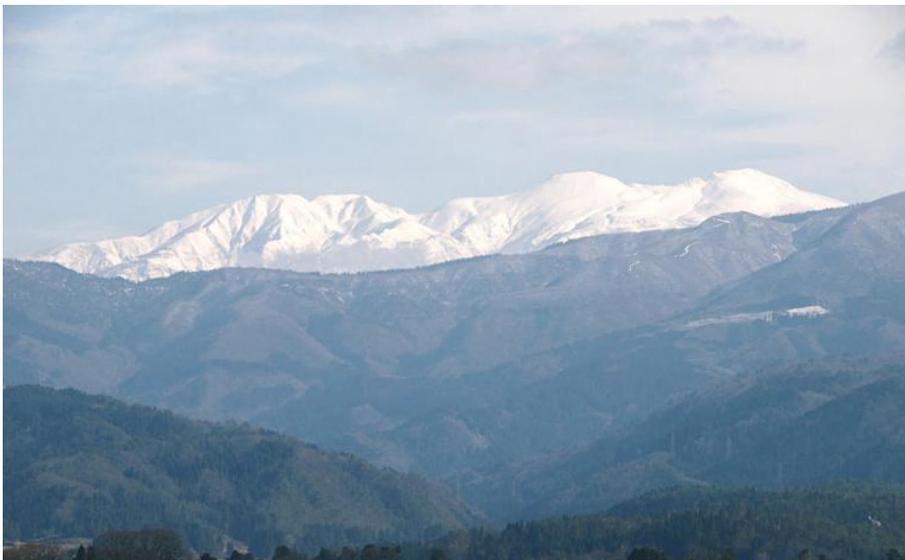
写真①大本山永平寺、写真②永平寺町より提供



# はくさん 仰ぎ見る白い頂 霊峰白山

永平寺町ふじまき藤巻、勝山市ほた保田、越前町おおたんじ大谷寺、高浜町わかさか脇坂など

勝山方面に進むと小舟渡橋付近から白山連峰がくっきりと見えてくる。白山はあちこちから見えるが、近づくほどに白く輝く姿が神々しく感じられる。白山に感謝し敬った信仰心を福井人は受け継いでいるようだ。



勝山市内から見る白山連峰①

勝山盆地を雄大に流れる九頭竜川くすりゅう、その背後には、たおやかな加越の山並みかえつ（越前甲、経ヶ岳、法恩寺山など）が連なり、さらに背後に白山連峰が見えるパノラマ状の眺望は、勝山でしか見ることができない景観です。えちぜん鉄道の小舟渡駅～比島駅間は、「日本



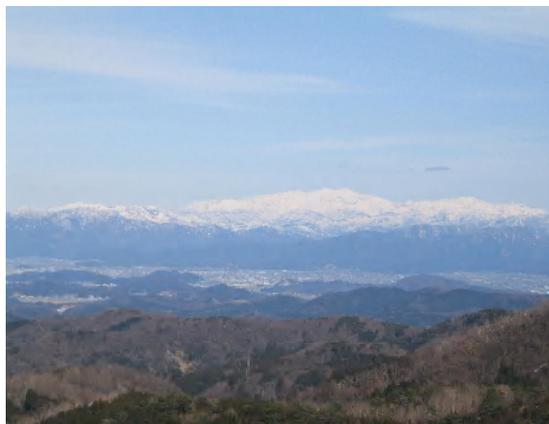
小舟渡から見る白山連峰②



小舟渡からの眺望



法恩寺山から見る白山連峰③



越知山（越前町）より望む白山連峰④



福井県最西端 高浜町から見る白山連峰⑤

西日本最大級のスキー場「スキージャム勝山」としても知られる法恩寺山（標高 1,357m）。山頂付近からも白山連峰を一望できます。山頂への登山路は昔、泰澄たいしょう大師が開いたとされる白山平泉寺から白山を結ぶかつての「越前禅定道」の一部でした。山頂に立つと、かつて山岳修行の場として往来した修行僧たちの思いがよみがえってくるようです。

また、かつて越知山（越前町）（標高 613m）で修行を積んでいた泰澄大師は、そこから見える白山に心ひかれていたようです。白山神の導きにより白山登拝を決心したといわれています。

晴れた日には高浜町からも白山連峰を眺めることができます。年に数度しか見ることができないと言われますが、降雪で白く輝いた山容は蜃気楼のように美しい光景です。



# 恐竜が眠る大地 ジオパーク 勝山

勝山市村岡町寺尾、北谷町杉山

大昔に絶滅した恐竜に会いに行く。恐竜の卵の形をした恐竜博物館に入ればたちまちタイムスリップ。恐竜化石の発掘現場もそう遠くない。勝山は恐竜に会えるまちだ。



村岡山山頂から見る恐竜博物館<sup>①</sup>



夕日に映える恐竜（かつやま恐竜の森）<sup>②</sup>

福井県立恐竜博物館は、勝山市の東部に位置し、美しい田園・自然景観に引き立つシンボリック景観を形成しています。村岡山山頂からは恐竜博物館とその周辺の「かつやま恐竜の森」を眺めることができます。

昭和63年に北谷町にある手取層群の一部で1億2千万年前の肉食恐竜化石が発見されて以来、この地域一帯が恐竜化石の宝庫としてクローズアップされています。

北谷町杉山の恐竜化石発掘サイトは、国内最大級の露頭面積を誇り、産出する恐竜化石の量も国内最大です。かつやま恐竜の森では、発掘現場から持ち込まれた岩石で発掘体験も行われており、恐竜の化石探しに夢中になる子供達で賑わっています。平成21年度には、勝山市域一帯が、「恐竜・恐竜化石」をメインテーマとした「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。



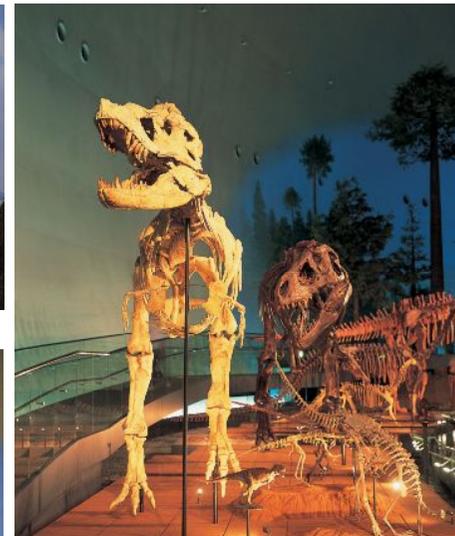
恐竜化石の発掘現場（勝山市北谷町杉山）



恐竜化石の発掘体験<sup>③</sup>



恐竜博物館全景



恐竜博物館内<sup>④</sup>



恐竜博物館内





きただに  
春を待つ北谷の山里集落

勝山市北谷町木根橋、小原

北谷では一晩で1m以上もの雪が降り積もることもあるという。この地に根をおろして生きる人とともに雪解けを待つ重厚な民家、積み重ねた年月が長いほどやさしく見えてくる。



きただに 木根橋集落①



雪深い木根橋集落②

石川県境に程近い勝山市北谷町は、滝波川がつくりだした段丘上に集落が点在する静かな山里集落です。

北谷7集落の1つ、木根橋では、白壁や土壁の建物が建ち並び、生活の必需品である薪があちこちに積まれており、昔ながらの山里集落景観を見ることが出来ます。また、北谷町は県内でも屈指の豪雪地帯であり、平年でも屋根の雪下ろしが数回必要になるほど、集落は深い雪に包まれます。



斜面を利用して建てられた小原集落③



石垣の上に立つ家屋④



学生らによる屋根の葺替え作業⑤

北谷の小原集落は、赤兎山（標高1,629m）や大長山（標高1,671m）への登り口にあり、標高約500mの高所に位置する集落です。山の斜面を切り開いて石を積んだ狭い敷地に段々状にたたずむ家屋がみられます。

家屋は切妻造で、1階をそのまま立ち上げた総2階建、外壁は土壁で塗り込めた大壁造で、白山麓文化の強い影響を受ける民家は県内でもこの地方にみられるだけとなっています。しかし、ほとんどの家は豪雪で大きな被害を受け、中には倒壊してしまったものもあります。

地元の住民らにより、こうした集落景観や豊かな自然環境を守る活動も行われています。中でも大学の学生達が、破損した家屋の調査・修復を行っており、大工の棟梁の指導のもと伝統的木造建築の技術を学びながら、修復作業を行っています。



写真①～④は勝山市、⑤は福井工業大学提供



# 「蝶よ花よ」と囃子が響く 城下町勝山の町並み

勝山市本町、元町など

左義長の日はなぜだか寒いと思わない。行燈に書かれた風刺のきいた川柳に笑い、浮かれ太鼓に体を揺らし、歳元でお酒をいただき、どんど焼きでは顔まで熱くなる。



本町通り周辺で行われる勝山左義長（県民俗文化財）

城下町時代の中心街であった本町通り周辺では、古くから五穀豊穡と鎮火を祈願する神事として、勝山左義長まつりが行われます（2月最終土日開催）。藩政時代からおよそ300年の歴史をもつ勝山の一大行事で、太鼓や三味線での賑やかな左義長囃子とカラフルな色彩の短冊が祭りを彩っています。また、祭りの2日目にどんど焼きが九頭竜川原で行われ、勇壮で豪快な光景を見ることができます。この祭りが行われる本町通り界隈は、呉服屋や酒屋、醤油屋など整った表構えをもつ商家が多くみられ、伝統的な町屋が数多く残されています。



伝統的民家が残る本町通り



まつりのクライマックス どんど焼き



本町通りの年の市



七里壁



河原通り



写真はすべて勝山市提供

勝山年の市は、冬の風物詩として本町通りで開かれる伝統の市です。毎年、1月に開かれるこの市は、小笠原藩政時代に、農家が冬の副業とする手作り品を持ち寄り、素人商いの市が開かれたのがきっかけで、村部と町との交流の場として古くから脈わってきました。

また、本町には「七里壁」と呼ばれる九頭竜川の段丘崖があります。古くは勝山の城下町を建設するにあたり、この段丘崖を境に上位段丘面に城や武家屋敷を下位段丘面に寺社や町屋を築いたという歴史があります。

七里壁や花街として栄えた河原通りなど、城下町の面影を今でも色濃く残す町並みとともに、左義長や年の市などの伝統行事が長きにわたり息づいています。



# 中世宗教都市の歴史を物語る 白山平泉寺 へいせんじ

へいせんじ  
勝山市平泉寺町

戦国時代には六千坊あったという平泉寺、今に残るのは白山神社と平泉寺集落。境内の石畳の参道、苔、老杉もそうだが、美しく積み上がった石垣が残る集落の景観もどこか気品が漂っている。



白山平泉寺旧境内 (国史跡) ①



発掘された中世の石畳道

白山平泉寺は、かつての境内が約 200ha に及び全国屈指の広さをもつ国の史跡です。

平泉寺は養老元年(717年)泰澄たいしやうたいし大師によって開かれたと伝えられ、白山信仰の越前側の拠点として、最盛期には 48 社 36 堂 6 千坊、僧兵 8 千人の巨大な宗教都市を形成していましたが、天正 2 年 (1574 年) に向一揆の焼き討ちによって全山焼失してしまいました。

その後、境内の中心部は再興されましたが、数多く存在した僧侶の住居は埋もれることとなりました。平成元年度からの発掘調査では、河原石が敷き詰められた石畳道や坊院跡が整然と区画された形で姿を現し、中世宗教都市としては国内最大の遺構が確認されており、当時の繁栄ぶりがうかがえます。



樹齢 300 年以上の杉が立ち並び平泉寺旧参道



ひっそりとたたずむ平泉寺白山神社拜殿



中世の面影を残す平泉寺区内②

菩提林ぼだいばやしとよばれる平泉寺の旧参道は、樹齢 300 年以上の杉が立ち並び、約 700m にわたり中世の石畳が続きます。

また、平泉寺集落内に残る屋敷割りの多くは、中世の僧坊を囲んだ石垣がそのまま利用されており、集落内に数多く残る伝統的民家や土蔵の町並みと調和した農村集落景観を形成しています。



平泉寺区内に残る伝統的民家と土蔵





# 懐かしい機織りの音が聞こえる 奥越のまち

勝山市 旭町など

「ガチャガチャ」、「カラカラカラ」、機織りの音がまちに響く。昔より織機の数も減ったが、いつもと変わらない、どこか懐かしい音は、今も人々の暮らしの一部だ。



建ち並ぶ繊維工場棟 (勝山市 旭町 1 丁目) ①

かつて、勝山の大きな機業場では、全国各地から数多くの集団就職者を受け入れ、最盛期には1千数百名が就業していたほど、繊維産業が栄えていました。勝山の市街地には、



はたや記念館「ゆめおーれ勝山」(市文化財) ②

繊維工場の工場棟が建ち並び、当時の隆盛を偲ぶ風景をみることができます。

繊維の町勝山を代表する産業遺産として、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」があります。平成10年まで勝山の中堅機業場として操業していた建物を保存・活用したものです。木製の糸織り機などを実際に動かして展示しており、ゆめおーれに



半木製織機の実演③



ケイター資料館④

響くシャトルの音はなつかしい勝山の町の音です。

ケイター資料館は、かつて市街地の中心部にあった工場の土蔵をそのまま資料館として保存しています。平成19年度には、「ゆめおーれ勝山」やケイター資料館などが国の近代化産業遺産に認定されています。

大野市内には、まちなか観光拠点施設となっている平成大野屋があります。かつては織物検査場として建築されたもので、絹織物の生産地として栄えた大野の町を象徴する建造物として親しまれています。



平成大野屋 (国登録文化財) ⑤